

止水高1m以上のご要望に応えた浸水防止システムの新モデル

「GENTI SANWRAP (サンラップ)」新発売

～軽量コンパクトで簡単設置でき、台風や集中豪雨による浸水被害を軽減～



▲商品ページ



商品名	GENTI SANWRAP(サンラップ)
発売日	6月

三重県四日市市に本社を置く(営業所＝東京、名古屋)サンリョウ株式会社は、工事現場の安全管理や水処理施設などの作業効率化に貢献する商品を数多く開発しており、全ての商品が現場の声を元に開発されています。

数ある商品の中、GENTI(ゲンチ)シリーズは「現場・現地主義」がコンセプトの商品ブランドです。

これまで減災・防災商品の開発・施工実績がありますが、近年ゲリラ豪雨や台風などによる水害が問題視されており、被害総額が数百万になることもあります。そんな被害を何とかできないものかと考え、この度、製造会社・企業様向けの浸水被害の「備え」対策として「GENTI SANWRAP (サンラップ)」を開発いたしました。当商品は、会社の大切な資産である資材・備品などを保管している倉庫・建物等を守るために開発された商品です。すでに「Boxwall (ボックスウォール)」という同目的の水害対策商品を販売してきましたが、多くのお客様より「Boxwall」の止水高500mmを超える商品の要望もいただいており、止水高1,200mmにも対応いたしました。また部分的な浸水被害を防止する従来品と違い、軽量・コンパクトにも関わらず、建物ごと包み、広範囲で浸水被害を軽減し、建物ごと守ることができます。過去に被害にあわれた方はもちろん、台風・豪雨などに備えを必要と感じておられた方も、被害にあう前の備えとして当商品をご活用いただきたいと考えております。

商品の特徴

1. 止水高1,200mmまで対応



一般的な損害保険の水害目安である地盤面から450mmを上回る止水高1,200mmまで対応できます。

2. 浸水被害を軽減



台風や集中豪雨により、土地が低い地域や谷底地になっている地形、河川の近くなどは床下浸水や床上浸水が懸念されます。あらかじめ設置することで被害を軽減することができます。

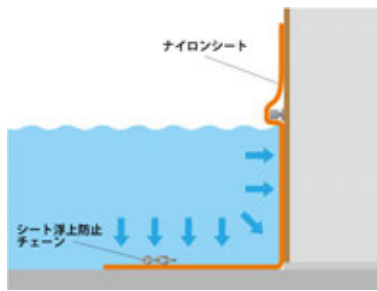
3. 軽量・コンパクトで簡単設置



軽量、ナイロンシートを使用することで、軽量化に成功。土のうだと重く運ぶのも調達するのも大変ですが、1枚600gのシートはファスナーでつなぐだけで簡単に設置できます。各シートはファスナーにて接続することができ、建物に合った形で組み合わせられます。

■ 従来品との違い

ラップのように建物ごと包むので、広範囲で建物ごと守ることができます。



水の自重及び水圧によって地面と構造物に固定され密着します。シート先端部に重り(チェーン)及び土のうを設置することで、シートは固定され浸水を止めます。

部分的な浸水被害を防止する従来品とは違い、**止水高1,200mm、最大幅40mの浸水被害を防止**します。

■ 土のうでの浸水防止対策の比較

	サンラップ	土のう
止水高	1,200mm	積み上げの高さ
設置容易性	軽量(約10kg:外周40m)	非常に重い(約30kg)
保管容易性	1㎡×1.5mスペース	都度、土も別途調達
再利用性	乾かすだけで再利用可	不可

■ 仕様

①シート(K)外角用	幅2400mm×縦2300mm ※手縫いの為、±20mmほどの誤差が出ます
②シート(W・S)直壁用	シートW:幅2400mm×縦2300mm シートS:幅1200mm×縦2300mm ※手縫いの為、±20mmほどの誤差が出ます。
③シート吊金具	高さ:1560mm 重量目安:1本=0.72kg
④シート浮上防止チェーン	重量目安:10m=6.3kg
⑤ポンプガード	サイズ:高さ1000mm×直径300mm 重量:2.46kg
⑥排出ポンプ	100V 口径:40mm 重量:11kg 始動水位:115mm



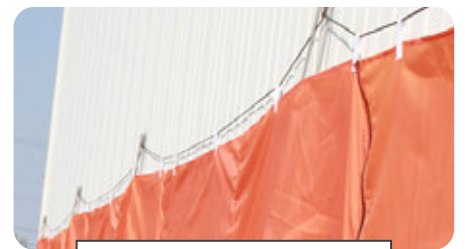
①シート(K)外角用

建物の角に当たる部分に専用シートを用いる。角床面をカバーするためにシート中央部のファスナーを開放して使用する。



②シート(W・S)直壁用

壁面が直線状になっている面に使用する。L型設置とし、縦面1300mm、床面1000mmで使用する。



③シート吊金具

建物の壁面にシートを固定するために専用金具(M字)を立て掛けてシートを吊り上げる。金具の間隔は約2500mm～3000mm程。



④シート浮上防止チェーン

シートの浮上防止のため重りとして専用チェーンをシートの上に全周置く。



⑤ポンプガード

シートがポンプに吸い込まれないようにガードする。壁面とシートの間に設置する。



⑥排出ポンプ

シートを通過した水の排出用に低水位対応自動水中ポンプ。一番低い場所に設置。始動水位は115mm。ポンプガード内に設置する。

被害にあってからでは遅い。 会社の大切な資産を守るための「備え」対策



業務を行うための特殊車両など
万が一水没した場合、復旧までに
時間かかり、最悪の場合には
廃車となる可能性があります。



工場や建設会社など、大量の
資材を保管している倉庫にも
ご活用いただけます。
また運送会社の場合、お客様の
大事な荷物も守ることに繋がります。



浸水した水の多くは下水を含んだ汚泥であり、悪臭を放ち、不衛生です。
そのため、床下浸水をしてしまった場合、床をはがして土砂・ごみ等を取り除く
作業や清掃・乾燥作業、消毒作業…など大掛かりな補修をしないと床下が腐って
しまい、そのまま使用することができません。また、被害状況によりますが、
浸水した資材や備品等の処分費などもあり、その他もろもろの費用も合わせると
被害総額が数百万円になることも…
火災保険や公的保証もありますが、被害規模によっては、保証外の可能性もあります。
※火災保険はご契約の範囲で保証内容も異なります。

■ 自然災害の浸水による住宅被害について

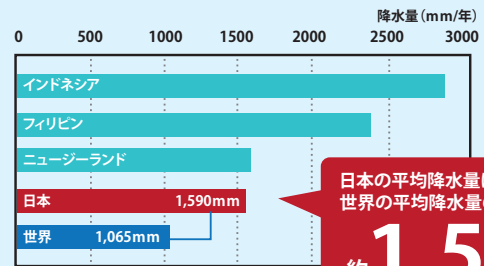
日本は世界4位の多雨地帯

日本は海に囲まれているため、**台風・低気圧・梅雨前線・秋雨前線**の活動時
や**夏季の大気不安定時**に大雨が発生しやすく、水害が生じやすい国です。

※出典：国土交通省 平成30年版「第1章 水の循環と水資源の賦存状況」より作成

ゲリラ豪雨増加や80mm以上の「雨」も増加傾向にある

近年の集中豪雨の多発、都市化の進展による雨水流出量の増大、人口・資産の
集中や地下空間利用の拡大等による都市構造の高度化などにより、都市部
における水害被害リスクが増大しています。



日本の平均降水量は
世界の平均降水量の

約 **1.5** 倍

水害に伴う被害状況

平成29年度の台風などの風水害による建物被害は合計で
全壊437棟、半壊2,737棟、床上浸水8,348棟、床下浸水18,509棟。
近年の台風や豪雨の激化により、その被害は大きくなっています。

※出典：国土交通省（平成29年水害統計調査）P16より作成

18,509棟 + 8,348棟 = 26,857棟

平成29年度の被害総額はなんと約1,790億円

**1番多いのが床下浸水、
2番目に多いのが床上浸水**

